

---

# 導尿演習で看護師・患者役割体験の順序と 学習内容に関する一考察

—演習後レポートの内容分析から—

細 矢 智 子  
山 崎 智 代  
佐々木 美 樹  
小 山 英 子

---

## 要旨

基礎看護技術における導尿の演習で、看護師・患者役割体験の順序と学習内容の関連について検討することを目的に、A大学看護学科1年生57名の演習後のレポートを分析した。

その結果、先に患者役割を体験した学生の7割がその後の看護師役割にいかせたと感じており、患者役として他学生の実施状況を観察することで導尿技術をイメージし易くなり、緊張感が少なく実施できると考えられる。看護師役割のレポートからは、1)カテーテル挿入に関する記述、2)清潔・不潔に関する記述、3)患者への配慮に関する記述、4)物品配置に関する記述、5)自己の振り返りに関する記述、の5つのカテゴリが抽出された。そして患者役割のレポートからは、1)自己の感情や感覚に関する記述、2)患者への配慮に関する記述、3)看護師役学生への要望に関する記述、の3つのカテゴリが抽出された。看護師・患者役割それぞれのレポートに患者への配慮に関する記述が見られ、学生は患者役割体験で得られた羞恥心などの感情から看護へ結びつけて考えを深めていた。看護師・患者役割それぞれのレポートの内容は役割の順序において大きな差異は認められなかった。これは、レポートが両役割体験後の演習後に記述されている点に関係していると考えられるが、学習内容の面で学生間の公平性が保たれていることがわかった。

キーワード：基礎看護技術、導尿演習、患者役割体験

## 1. はじめに

看護教育の現場では、看護実践能力の基盤をなす基礎看護技術の習得の重要性が再認識されている。基礎看護技術の学内演習では、学生が相互に看護師・患者役割を担う学習方法が多い。患者役割を体験することは、患者への配慮や共感を養うことなど、患者の立場に立った看護技術の実施につながるという学習効果をねらったもので、発展的に学習が深められるといわれている。しかし、これまでの基礎看護技術演習に関する研究の動向(穴沢, 2004)でも、患者役割を体験することで学生が心理的侵襲を受けるという技術項目があることや、心理的・身体的侵襲を伴う技術演習に関

しては倫理的な配慮が重要となることが分かっている。身体的侵襲を伴わない技術項目の調査で、患者役割を体験した学生の認識について、演習内容によって恥ずかしさを感じ看護師役对学生に対する遠慮などが見られるという報告(細矢, 2008)からも、学生の権利を守る上での倫理的な配慮は必要である。看護師を対象にした週及的調査(大西, 2007)では、倫理的配慮を要する看護技術の教育方法についてまとめられている。それによると、実施を体験することに肯定的な意見が4割を超え、否定的な意見がないものの、患者体験をしたことについては肯定的な意見と否定的な意見に分かれたと報告されている。特に排泄に関する技術項目では、かつて実際に排泄を体験させられたことで学生のプライバシーや身体権が侵害されると考えられていた演習もあり(成田, 1993; 渡部, 1993)、今日の演習方法の選択に大きく影響している。このような点から、排泄の授業において学生が患者役割を体験することと、状況に応じてモデルやシミュレーターを組み合わせていくことを考慮し、学習効果を高める点と学生の権利を守る上での倫理的配慮との双方で教育方法を工夫していくことが重要である。

先の研究で、排泄に関する技術演習項目では、羞恥の気持ちなどの感情面の知覚の方が強く印象に残る傾向があり(米村, 2005)、学生は自分が患者役として恥ずかしさや苦痛を感じていても、患者の心理を理解するという認識には至っていないことがわかった(細矢, 2008)。このような傾向が見られた排泄に関する技術演習項目の一つに導尿がある。患者役割を体験することで恥ずかしさや苦痛などの感情面の知覚が強く印象付けられ、患者への配慮や共感を養うといった指導する側がねらいとする患者役割体験の学習効果が表れていないと考えられる。そこで、実際に導尿の演習においてどのような学びが得られるのか、また、看護師役割と患者役割の順序の違いにより学生の学習内容の違いが生じるのかについて検討を試みた。基礎看護技術の授業に関する研究は多くされており、導尿に関しても技術習得に関する報告(佐藤, 2007; 高橋, 2007; 清宮, 2006)があるが、演習時の看護師・患者役割の順序に関する報告はほとんどない。経験的に先に患者役割を実施した学生の方がその後の看護師役割実施に有利に働くと考えられるが、レポートにはどのように表されるのだろうか。導尿演習後の学生のレポートを分析し学習内容を把握することで、教育方法の工夫や学生への倫理的な配慮など、今後の指導に役立つ示唆が得られると考える。

## 2. 目的

基礎看護技術における導尿の演習で、看護師・患者役割体験の順序と学習内容の関連について検討する。

## 3. 方法

### (1) 分析対象

平成19年度A大学看護学科1年生で導尿の演習に出席し、研究協力の同意が得られた57名の演習後のレポートを分析対象とする。レポートは看護師・患者役割それぞれを実施した結果についての自由記述と、どちらの役割を先に体験したか、患者役割体験が看護師役割を実施する際にかせたか否かについて設問した。レポートは授業中に配布し、演習の翌日に時間と場所を指定して回収した。

## （2）分析方法

今回は看護師・患者役割それぞれを実施した結果のレポートを導尿演習の学習内容と捉え、役割の順序で先に体験した役割別に分析した。分析方法は、記述内容を一つの意味をなす文脈に細分化し、細分化された内容を1記録単位とし、類似性に従い件数を集計した。結果の信頼性、妥当性を確保するため、分析は技術演習指導を行った基礎看護学領域の共同研究者ら4人で繰り返し検討した。

## （3）倫理的配慮

レポート回収後に口頭および文書にて以下の点を学生に説明した。研究協力は自由であり協力の是非により不利益を被ることはないこと、評価には関係しないこと、記名式であるが個人が特定されるようなことはないこと、研究以外には使用しないことを説明し、署名による同意を得た。

## 4. 対象学生の学習進度の状況

本研究の対象となっている導尿の演習は、1年次後期の生活援助技術を学習する基礎看護技術の科目に含まれている。対象学生の1年次前期までの学習進度の状況は、専門基礎科目では、人体の構造（2単位）、生化学（2単位）、生物学（2単位）、専門科目では看護学概論（2単位）、共通基本技術と生活援助技術の一部（2単位）の科目は履修済であった。基礎看護技術において履修済みの演習項目は、ベッドメイキング、臥床患者のリネン交換、環境整備、車椅子・ストレッチャーの移送、バイタルサインの測定、無菌操作であった。また、「実際の看護活動に参加することにより、看護の対象である患者をとりまく環境と、患者の日常生活を理解する」ことを目的とした、基礎看護実習Ⅰ（1単位）を終了していた。

## 5. 演習の説明

教員による導尿のデモンストレーションを実施後、各グループに分かれてグループ内で役割を決定し、実施した。患者役はスパッツ等を着用した状態でカテーテル挿入の部分に導尿モデルを使用し、全員が看護師・患者役割を体験した。演習グループは男女別とし、1グループ4人で編成した。女子学生は女性の導尿を一人で実施、男子学生は男性の導尿を実施者と介助者の二人で行った。カテーテルの挿入にはディスポーザブル手袋を装着し、鑷子を用いて挿入した。

## 6. 結果

### （1）役割体験の順序と患者役割がいかせたか否か

先に看護師役割を実施した学生は32名、先に患者役割を実施した学生は25名で、先に患者役割を実施した学生のうち18名（72%）はその後の看護師役割を実施する際に「いかせた」と回答した（図1）。

### （2）看護師役割のレポートの内容

先に看護師役割を実施した学生のレポートから146記録単位、先に患者役割を実施した学生のレポートから106記録単位を抽出した。各レポートの記録単位から同じ5つのカテゴリが抽出された。

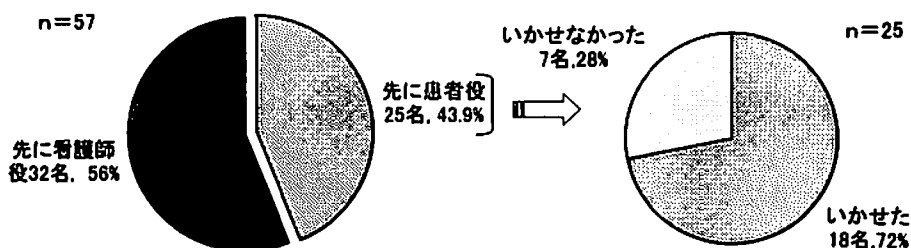


図1 役割の順序と患者役がいかせたか否か

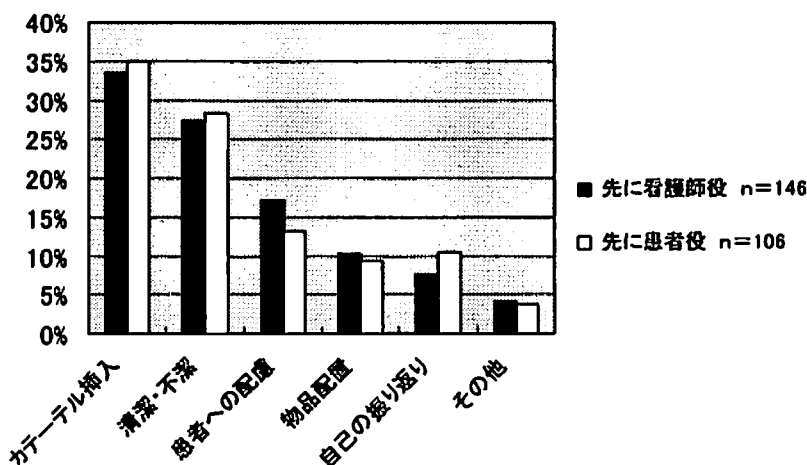


図2 看護師役割のレポート内容

そのカテゴリは、1) カテーテル挿入に関する記述、2) 清潔・不潔に関する記述、3) 患者への配慮に関する記述、4) 物品配置に関する記述、5) 自己の振り返りに関する記述、である。カテゴリに含まれない記録単位は、先に見護師役6件；4.1%、先に患者役4件；3.8%であった(表1・2, 図2)。

1) カテーテル挿入に関する記述内容

カテーテル挿入に関する記述は、先に見護師役49件；33.6%、先に患者役37件；34.9%であった。内容は、①カテーテル操作の難しさに関する記述(先に見護師役22件；15.1%、先に患者役18件；17.0%)、②カテーテル挿入方法の理解に関する記述(同9件；6.1%、10件；9.4%)、③潤滑油に関する記述(同6件；4.1%、3件；2.8%)、④口呼吸および腹圧に関する記述(同4件；2.7%、3件；2.8%)、⑤尿道損傷の理解に関する記述(同3件；2.1%、件数なし)、⑥カテーテルに関するその他の記述(同5件；3.4%、3件；2.8%)、の6つのサブカテゴリからなる。

2) 清潔・不潔に関する記述内容

清潔・不潔に関する記述は、先に見護師役40件；27.4%、先に患者役30件；28.3%であった。内容は、①無菌操作の反省に関する記述(先に見護師役13件；8.9%、先に患者役5件；4.7%)、②無菌操作の難しさに関する記述(同9件；6.2%、11件；10.4%)、③感染予防の理解に関する記述(同

表1 患者役割体験による学生の認識と心理的状態

(総記録単位146件=100%)

記述内容（一部抜粋）	サブカテゴリ	カテゴリ
・思っていた以上にカテーテルを挿入するのに苦労した ・カテーテルが長くて、挿入する時だけでなく置く時も思うようにいかなくて苦労した	①カテーテル操作の難しさに関する記述 (22件；15.1%)	1) カテーテル挿入に関する記述 (49件；33.6%)
・カテーテルを挿入している時に、どのくらい入っているか、配慮しなければならないことは多いと感じた ・尿道の長さを考えて入れた	②カテーテル挿入方法の理解に関する記述 (9件；6.1%)	
・カテーテルを挿入する際、潤滑油が少いとうまく入っていかないことがわかった	③潤滑油に関する記述 (6件；4.1%)	
・口呼吸の理由は膀胱がかわらないようにするためだった ・膀胱がかわるとカテーテルがぬけてしまう	④口呼吸および膀胱に関する記述 (4件；2.7%)	
・無理に進ませると尿道を傷つける恐れがあるので、ゆっくりと進ませた ・少しの油断や焦りが尿道をきずつけてしまう	⑤尿道損傷の理解に関する記述 (3件；2.1%)	
・カテーテルの水気をよく落としてからじゃないと、防水シートやその周りにとび、汚れる可能性がある	⑥カテーテルに関するその他の記述 (5件；3.4%)	
・無菌操作で混乱してしまったときがあった ・久しぶりの無菌操作だったので、所々曖昧だった	①無菌操作の反省に関する記述 (13件；8.9%)	
・どこが清潔でどこが不潔なのか良くわからなくて難しかった ・思った以上に陰部の消毒が難しい	②無菌操作の難しさに関する記述 (9件；6.2%)	
・尿路感染を防止するために消毒の仕方を考えて、根拠づけながら進めることが大事だと思った	③感染予防の理解に関する記述 (7件；4.8%)	
・何気ない動作が無駄になったりしてしまうことが分かった	④無菌操作の理解に関する記述 (4件；2.7%)	
・鑷子の使い方、処理の仕方が特に気をつかった	⑤鑷子の取り扱いに関する記述 (3件；2.1%)	
・消毒綿球を良く絞る	⑥消毒綿球のしぼり方に関する記述 (3件；2.1%)	
・陰部をおさえている手で腹部をおすのは少し抵抗を感じた	⑦清潔・不潔に関するその他 (1件；0.7%)	
・患者さんの不安が小さくなるように、きちんと説明ができるようにしなければならないと思う	①声かけや説明に関する記述 (9件；6.2%)	3) 患者への配慮に関する記述 (25件；17.1%)
・手早く物品配置や準備を行わないと、「寒い」という苦痛を与えてしまう	②不快にさせない実施に関する記述 (8件；5.5%)	
・患者さんの羞恥心をなくすことに気がつけた ・患者さんに不要な露出をさけるように心がけました	③羞恥心への配慮に関する記述 (7件；4.8%)	
・患者の気持ちまでしっかり考えてあげられなかった	④患者への配慮に関するその他 (1件；0.7%)	
・物品の準備する位置がちよっと違うだけでも、やりやすかったり、やりにくかったりした		4) 物品配置に関する記述 (15件；10.3%)
・前期に勉強していた知識を忘れていた部分が多かったので、しっかり復習したい ・全体的に行動が遅かった		5) 自己の振り返りに関する記述 (11件；7.5%)
		その他 (6件；4.1%)

表2 先に患者役を実施した学生の看護師役割のレポート内容

(総記録単位 106 件=100%)

記述内容 (一部抜粋)	サブカテゴリ	カテゴリ	
・カテーテルの5cmのところを把持したまま挿入が難しかった ・尿の流出が終わった後に、カテーテルを取り出し、膀胱に入れる時に飛び出ないように入れるのが難しかった	①カテーテル操作の難しさに関する記述 (18 件 ; 17.0%)	1) カテーテル挿入に関する記述 (37 件 ; 34.9%)	
・鑷子の持ち方を工夫するだけでカテーテルがスムーズに入るようになる ・どこをもてばネラトンが尿道にきちんと入るかを、この演習で実際にやってみてわかった	②カテーテル挿入方法の理解に関する記述 (10 件 ; 9.4%)		
・オリブ油を充分につけることが大事だと感じた	③潤滑油に関する記述 (3 件 ; 2.8%)		
・腹圧がかかるとカテーテルが入らないし抜けてしまう	④口呼吸および腹圧に関する記述 (3 件 ; 2.8%)		
・滅菌手袋を使用してカテーテルを挿入したほうが、感覚がつかめて、挿入しやすいと思った	⑤カテーテルに関するその他の記述 (3 件 ; 2.8%)		
・滅菌包みの開き方を少し忘れていたので、復習が必要だと思った	⑥無菌操作の反省に関する記述 (5 件 ; 4.7%)		2) 清潔・不潔に関する記述 (30 件 ; 28.3%)
・どこが清潔か不潔か考えながらやるのが大変だった ・清潔部分を触ってしまった	⑦無菌操作の難しさに関する記述 (11 件 ; 10.4%)		
・菌がはいらないように陰唇を広げることが大切だと思った	⑧感染予防の理解に関する記述 (2 件 ; 1.9%)		
・常に、清潔・不潔を考えて作業をしなけれいけいけいと感じた	⑨無菌操作の理解に関する記述 (4 件 ; 3.8%)		
・鑷子を使い分けるといことをよく考えて行った	⑩鑷子の取り扱いに関する記述 (4 件 ; 3.8%)		
・消毒液がいっぱいついていたりたれるので、綿球を絞ることが大切だと思った	⑪消毒綿球のしぼり方に関する記述 (2 件 ; 1.9%)		
・無菌操作の復習も出来てよかった	⑫清潔・不潔に関するその他 (2 件 ; 1.9%)		
・援助に集中してしまい、そこまで(声かけ)、気が回らなかったのが、残念だった	⑬声かけや説明に関する記述 (2 件 ; 1.9%)	3) 患者への配慮に関する記述 (14 件 ; 13.2%)	
・綿球の持ち方が、深く持ちすぎると(鑷子か)陰部に当たって、患者さんにとって不快にさせる	⑭不快にさせない実施に関する記述 (3 件 ; 2.8%)		
・私たちは、プライバシーをきちんと守り、行うことが大切だと実感した	⑮患者心への配慮に関する記述 (7 件 ; 6.6%)		
・実際に人を相手にしたときにとまどたりしないように、しっかり復習したいと感じた	⑯患者への配慮に関するその他 (2 件 ; 1.9%)		
・実施するときは、配置も使いやすいうように出来るようにしたい ・最初だったので、準備物の配置が難しかった		4) 物品配置に関する記述 (10 件 ; 9.4%)	
・学習したことは復習するべきだと感じた ・常に考えながらやりやすいように操作する		5) 自己の振り返りに関する記述 (11 件 ; 10.4%)	
		その他 (4 件 ; 3.8%)	

7件；4.8%，2件；1.9%），④無菌操作の理解に関する記述（同4件；2.7%，4件；3.8%），⑤綿子の取り扱いに関する記述（同3件；2.1%，4件；3.8%），⑥消毒綿球のしぼり方に関する記述（同3件；2.1%，2件；1.9%），⑦清潔・不潔に関するその他の記述（同1件；0.7%，2件；1.9%），の7つのサブカテゴリからなる。

### 3）患者への配慮に関する記述

患者への配慮に関する記述は，先に看護師役25件；17.1%，先に患者役14件；13.2%であった。内容は，①声かけや説明に関する記述（先に看護師役9件；6.2%，先に患者役2件；1.9%），②患者を不快にさせない実施に関する記述（同8件；5.5%，2件；1.9%），③羞恥心への配慮に関する記述（同7件；4.8%，7件；6.6%），④患者への配慮に関するその他の記述（同1件；0.7%，2件；1.9%），の4つのサブカテゴリからなる。

### 4）物品配置に関する記述

物品配置に関する記述は，先に看護師役15件；10.3%，先に患者役10件；9.4%であった。

### 5）自己の振り返りに関する記述

自己の振り返りに関する記述は，先に看護師役11件；7.5%，先に患者役11件；10.4%であった。

## （3）患者役割のレポートの内容

先に看護師役割を実施した学生のレポートから107記録単位，先に患者役割を実施した学生のレポートから69記録単位を抽出した。各レポートの記録単位から同じ3つのカテゴリが抽出された。そのカテゴリは，1）自己の感情や感覚に関する記述，2）患者への配慮に関する記述，3）看護師役の実施に関する記述，である。カテゴリに含まれない記録単位は，先に看護師役11件；10.3%，先に患者役5件；7.2%であった（表3・4，図3）。

### 1）自己の感情や感覚に関する記述

自己の感情に関する記述は，先に看護師役57件；53.3%，先に患者役34件；49.3%であった。内容は，①羞恥心に関する記述（先に看護師役21件；19.6%，先に患者役14件；20.3%），②疲労感に関する記述（同8件；7.5%，5件；7.2%），③不安に関する記述（同8件；7.5%，2件；2.9%），④痛いイメージに関する記述（同6件；5.6%，3件；4.3%），⑤不快さに関する記述（同5件；4.7%，4件；5.8%），⑥辛さに関する記述（同3件；2.8%，4件；5.8%），⑦患者役として体位の工夫に関する記述（同3件；2.8%，2件；2.9%），⑧羞恥心なしに関する記述（同3件；2.8%，件数なし），の8つのサブカテゴリからなる。

### 2）患者への配慮に関する記述

患者への配慮に関する記述は，先に看護師役32件；29.9%，先に患者役27件；39.1%であった。内容は，①患者の気持ちや思いを考慮することに関する記述（先に看護師役10件；9.3%，先に患者役15件；21.7%），②声かけの重要性に関する記述（同7件；6.5%，1件；1.4%），③手際よい実施に関する記述（同5件；4.7%，2件；2.9%），④実施は同性の看護師を望むことに関する記述（同5件；4.7%，2件；2.9%），⑤プライバシーの保護に関する記述（同4件；3.7%，3件；4.3%），⑥安楽な体位の取り方に関する記述（同件数なし，3件；4.3%），⑦患者への配慮に関するその他の記述（同1件；0.9%，1件；1.4%），の7つのサブカテゴリからなる。

表3 先に看護師役を実施した学生の看護師役割のレポート内容

(総記数単位 107 件=100%)

記述内容 (一部抜粋)	サブカテゴリ	カテゴリ	
・恥ずかしいという気持ちが強かった ・下肢を開けば開くほど羞恥心を感じると思った	①羞恥心に関する記述 (21 件; 19.6%)	1) 自己の感情や感覚に関する記述 (57 件; 53.3%)	
・足をまげて立てていることがつかわれた ・足を長時間曲げて曲がっている状態だったので、すごく足が疲れた	②疲労感に関する記述 (8 件; 7.5%)		
・自分の見えない所で処置をされたら不安になりました ・今何をしてもらっているか不安があった	③不安に関する記述 (8 件; 7.5%)		
・カテーテルを挿入すると思うと、痛そうでした ・あの太さのカテーテルが入ってくるのはすごく痛いと思う	④痛いイメージに関する記述 (6 件; 5.6%)		
・カテーテル挿入の際、必ず違和感を感じると考える ・防水布をきれいに敷かないと腰がごわごわしていた	⑤不快さに関する記述 (5 件; 4.7%)		
・数分でも足を立て、開いた状態を維持することはつらかった ・仰臥位ですっと同じ状態にいるのは辛く	⑥辛さに関する記述 (3 件; 2.8%)		
・足を開く際、足と肩幅より外に開くと足を開いた状態をキープしやすかった ・両膝を立て、足を広く広げると足が楽でした	⑦患者役として体位の工夫に関する記述 (3 件; 2.8%)		
・本当にやられているわけでもなかったのに、恥ずかしさとかかわなかった	⑧羞恥心なしに関する記述 (3 件; 2.8%)		
・導尿をされることは、羞恥心などを伴うので、患者さんにとっては嫌なことの一つかもしれない ・導尿をされることによって、排尿ができ、下腹部の不快感などが無くなれば良い気持ちになれるだろうと思いました	①患者の気持ちや思いを考慮することに関する記述 (10 件; 9.3%)		2) 患者への配慮に関する記述 (32 件; 29.9%)
・自分の目で確認できないので、説明や声掛けは大切だと思った ・事前の十分な説明と処置に対する安心感(気を楽に)が得られるような声かけなどの配慮が必要	②声かけの重要性に関する記述 (7 件; 6.5%)		
・導尿セットの用意などできる限り早く行い、患者の負担を減らすことが大事だと思った	③手際よい実施に関する記述 (5 件; 4.7%)		
・女性患者であれば、男性看護師にしてほしくない人が多いと考える ・男性だったら女性に実施されるのは少し抵抗があるのかもしれないと思います	④実施は同性の看護師を望むことに関する記述 (5 件; 4.7%)		
・プライバシーに気をつける ・綿毛布のかかけかた(露出を気を付ける)	⑤プライバシーの保護に関する記述 (4 件; 3.7%)		
・室温の調整をして緊張を取り除く	⑦患者への配慮に関するその他の記述 (1 件; 0.9%)		
・きちんと声かけや何をしているのか痛川に説明してもらえるといいと感じた ・できる限りバスタオルは大きめのものを利用してほしいと思った		3) 看護師役の学生への要望に関する記述 (7 件; 6.5%)	
		その他 (11 件; 10.3%)	



表4 先に患者役を実施した学生の患者役割のレポート内容

(総記録単位69件=100%)

記述内容（一部抜粋）	サブカテゴリ	カテゴリ
・実際に患者役をしてみると、とても恥ずかしかった ・足を広げるのが恥ずかしかった	①羞恥心に関する記述 (14件；20.3%)	1) 自己の感情や感覚に関する記述  (34件；49.3%)
・ずっと足を開いた体勢が続いて疲れた ・両膝を長時間広げていると、疲れてしまった	②疲労感に関する記述 (6件；7.2%)	
・常に不安な気持ち ・カテーテルを挿入された時は、とても不安を感じる	③不安に関する記述 (2件；2.9%)	
・実際、痛そうだった ・カテーテルを挿入する際、痛みがあるのか気になった	④痛いイメージに関する記述 (3件；4.3%)	
・ずっと足を開いた体勢が続いて疲れた ・膝を立てている間、足を開いている体勢がとても疲れた	⑤不快感に関する記述 (4件；5.8%)	
・ずっと足を開いている状態だったので、内側の筋肉が張って辛かった	⑥辛さに関する記述 (4件；5.8%)	
・先生に聞いてみたら・・・アドバイスを実行したら楽になった ・シーツで足が滑ってしまうので、どう改善したら良いのか	⑦患者役として体位の工夫に関する記述 (2件；2.9%)	
・この体位は患者さんにとって恥ずかしいのではないかと思った ・カテーテルを入れるときに体位のこともしっかり考えなければ、患者さんの腰など痛みを感じてしまうと思った ・恥ずかしいよりも楽になるほうが患者にとっては、よいことではないかと感じた	⑧患者の気持ちや思いを考えることに関する記述 (15件；21.7%)	
・どのような処置をされているのか患者からは見えないので、突然何も言わずに陰部に触れたりしてはいけないと思った	⑨声かけの重要性に関する記述 (1件；1.4%)	
・自分が看護師役をする時は、患者を待たせないように行えるようにしたいと感じた	⑩手際よい実施に関する記述 (2件；2.9%)	
・女性の患者さんには、女性の看護師、男性の看護師さんがやるということは、患者さんにとって少しは、安心できるのだと思った	⑪実施は同性の看護師を望むことに関する記述 (2件；2.9%)	
・実際に導尿をする時は患者はもっとは恥ずかしい思いをするのでプライバシーの保護に十分に気をつける	⑫プライバシーの保護に関する記述 (3件；4.3%)	
・どうやったら患者さんが楽な体勢になるのか考えていきたいと思う ・患者さんが力めるような体勢作りを大切だと思いました	⑬安楽な体位の取り方に関する記述 (3件；4.3%)	
・患者さんに対しての態度を考えていかなければいけないと思った	⑭患者への配慮に関するその他の記述 (1件；1.4%)	
・看護師が実施することに集中してしまっていて、患者の声かけが遅れていた点も気になった ・声かけはできるだけしてほしいと思った		3) 看護師役の学生への要望に関する記述  (3件；4.3%)
		その他  (6件；7.2%)

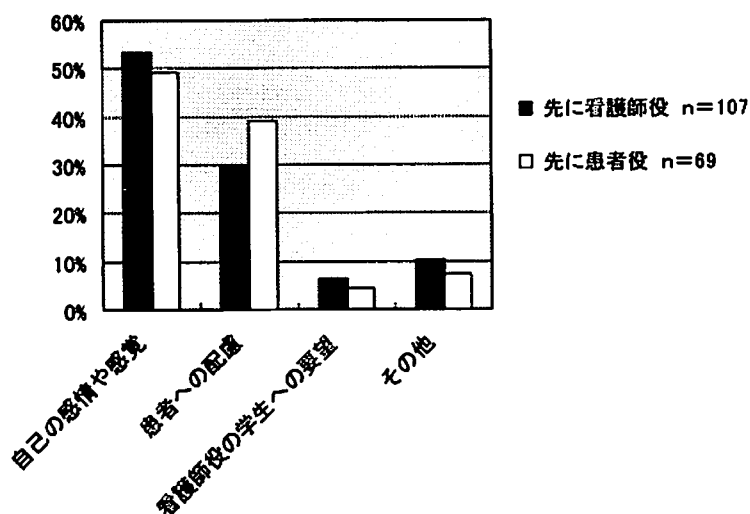


図3 患者役割のレポート内容

### 3) 看護師役/学生の要望に関する記述

看護師役/学生の要望に関する記述は、先に看護師役 7件；6.5%，先に患者役 3件；4.3%であった。

## 7. 考察

### (1) 役割順序と学生の感じ方

先に患者役割を体験した学生の7割がその後の看護師役割にいかせたと答えており、患者役として看護師役/学生の実施状況を観察することで導尿技術をイメージし易くなり、緊張感が少なく実施できるのではないかと考えられる。しかし、3割の学生はその後の看護師役割にいかせたとはいっていない。これは、演習グループが4人編成であり、患者役として看護師役/学生の実施状況を観察しなくても観察者としてより客観的に観察できるグループ内の役割があるためだと考える。よって、グループ内で初めて看護師役を実施する場合と、先に患者役または観察者役として実施状況を観察してから2番目、3番目という順番に実施するかどうかの順序の違いで捉え方が異なることが予想される。また、患者役割を体験することの教育上の意味を理解できないまま演習を行っている学生の存在も否定できない。演習時の患者役/学生の様子を観察し、状況に応じて理解を促すことも必要である。

### (2) 看護師役割のレポートから見る学習内容

看護師役割のレポートは、カテーテル挿入、清潔・不潔、患者への配慮、物品配置など、導尿技術の要素となる内容であった。カテーテル挿入に関してはカテーテル操作の難しさに関する記述が最も多く、今回の導尿演習では、鑷子を用いてカテーテルを挿入する方法を取り入れたことが結果に表れているといえる。それぞれのカテゴリにおいて理解できた点や困難に感じた点、反省点などが含まれており、実際に導尿を実施することで導尿技術の各要素を踏まえ、学びが深まっていると

いえる。

清潔・不潔に関する学習は既習の内容であるが、導尿技術には必ず要求される学習内容である。無菌操作を学習した後に導尿の技術を学習するなど、技術の順序性を考えながら一つ一つの技術を積み重ねていく意味を実感できる技術である。また、鑷子の取り扱いなどは実習等で経験回数が少ない技術であるため、演習の中で復習することの重要性について学生の認識を高めていると考えられる。川嶋ら（2005）は看護基本技術の習得に向けた教育課題の一つに「既習知識の不足」を挙げ、既習知識の統合に関する課題について述べている。技術の根拠を理解したり技術の適応を考えたりするためには、看護学の知識だけではなく解剖学や生理学など、周辺領域の諸科学の知識が必要である。学習過程で積み重ねられていく一つ一つの技術や周辺領域の諸科学を含む既習知識は、看護技術の習得には欠かせないものである。レポートには、導尿技術の要素の他「前期に勉強していた知識を忘れていた部分が多かったので、しっかり復習したい」「学習したことは復習するべきだと感じた」など、レポートをまとめることで自己を振り返り、看護技術の習得に向け反省点や今後の課題を見出している内容も含まれていた。学生自身が知識や技術を統合することの重要性について認識していると考えられる。

### （3）患者役割のレポートから見る学習内容

患者役割のレポートでは、内容の半数が自己の感情や感覚に関するものであった。その中で羞恥心に関する記述内容が全体の2割を占め、その他、疲労感や不安、痛いイメージなどの感情や感覚が多数あった。前回の報告（細矢，2008）では、排泄に関する技術演習項目で患者役割を体験して患者の心理を理解するという学生の認識が低く、それは羞恥心などの感情面の方がより強い印象をもたらすためであると考えられた。全内容の半数、さらにそのほとんどが羞恥心や疲労感などの感情や感覚で占められており、過去の報告と同様、患者役割体験がネガティブな感情で印象付けられてしまうことが想像できる。そして、その結果として患者の心理を理解するという認識には至らないことが考えられる。よって今後は、学生が患者役割体験で得た感情や感覚を単なる感想で終わらせるのではなく、看護に結び付け、患者の心理を理解するという視点で認識できるように意識的に関わるのが重要となる。グループで話し合う時間を設けたり、レポートに項目を設定したりするなどして、学生が考えを深められるように指導の中で意図的に状況設定を取り入れていくことも必要である。

しかし、記述内容の約3割は患者への配慮に関するもので、学生は患者役割を体験することで得られた羞恥心や疲労感などのネガティブな感情や感覚から看護に結び付けて考えている。これは患者役割体験をすることで得られる共感する態度や患者への配慮であり、指導する側がねらった学習効果といえる。看護技術の習得において、実際の患者が経験する羞恥心や不安などの苦痛を患者役割体験を通して認識し、そこから看護について考えを深めていくプロセスが重要である。よって、まずはネガティブな感情や感覚を認識することも大きな意味があり、多くの記述が見られるのも当然の結果である。患者役割のレポートから患者への配慮に関する記述が得られたことは、嘉手刈ら（2006）の「患者体験を通して看護者の心理状態や言動が患者に影響を及ぼしていることを実感し、技術を実施する時のありたい看護者像を描く」という患者体験から得られる教育上の意義と言える。

今回、患者への配慮の中でも「いかに患者を神経質にさせる処置であるかを感じた」、「この体位は患者さんにとって恥ずかしいのではないかと思った」など、自己の感情や感覚から患者の気持ちや思いを考えている記述が多く見られた。さらに少数ではあるが、「導尿をされることによって、排尿ができ、下腹部の不快感などが無くなれば良い気持ちになれるだろうと思いました」、「恥かしいよりも楽になるほうが患者にとっては、よいことではないかと感じた」など、患者の気持ちや思いを推し量りながら導尿の目的につなげて理解している記述も見られた。

また、大西(2007;2008)は「患者体験の捉え方は演習時の教員の関わり方によっても異なる」という点や、「患者体験をすることが患者の気持ちを理解する唯一の方法であるとは限らず、患者の気持ちを想像する力と患者の細かな表情の動きも見逃さない観察力が重要である」こと、「学生自身が倫理的な配慮を受け、尊重されたという体験は、自らもそのような配慮ができる看護者に育っていくためには必要である」と述べている。ネガティブな感情や感覚を引き起こすような演習項目を考慮し、よりいっそうの学生に対する倫理的配慮や教員の学生への関わり方、モデルやシミュレーターなどで実際に体験できない部分での学生の想像力や観察力を引き出す指導についても考えていく必要がある。

#### (4) 役割の順序と学習内容

患者への配慮は、看護師・患者役割それぞれのレポートに記述されている内容である。看護師役割のレポートでは先に看護師役を実施した方が、患者役割のレポートでは先に患者役を実施した方が、患者への配慮に関する記述内容が多い結果となった。どちらの役割においても、看護の基本となる患者への配慮の内容が含まれ学びが得られているが、先に体験した役割のレポートに記述する傾向がうかがえる。先に体験した役割を遂行する中で、看護師役は看護師の視点で、患者役は体験を通してありたい看護師像をイメージして、患者への配慮について考えを深めていることがわかる。看護師役と患者役双方の体験が学生の中で影響しあって直接的体験以上の気づきをもたらしている(嘉手苅, 2006)ことから、演習後に両役割においてレポートの記述を求める意味があると考えられる。

全体的に看護師・患者役割それぞれのレポートで、役割の順序において内容に大きな差異は認められなかった。これはレポートが両役割体験後の演習後に記述されている点に関係していると考えられる。実習室で限られた時間の中で体験する技術であり、役割ごとに記述する時間を確保していない点など、本研究の限界と言える。また、演習グループが4人編成であり、看護師・患者役割の他、観察者としての役割があることも影響していると考えられる。観察者として他学生の実施および患者役の学生を客観的に見ることから学びを得ることは当然のことである。今回の演習後のレポートでは観察者としての記述は設定していないため、今後検討していく必要はあるだろう。しかし、演習後にレポートをまとめることも学習の一部であるという前提で内容を比較した結果、学習内容の面で学生間の公平性が保たれていることがわかった。

#### 8. まとめ

導尿演習後のレポートを看護師・患者役割で先に実施した役割ごとに分析、比較した結果、以下のことが明らかになった。

(1) 先に患者役割を体験した学生の7割がその後の看護師役割にいかせたと感じており、患者役として他学生の実施状況を観察することで導尿技術をイメージし易くなり、緊張感が少なく実施できると考えられる。

(2) 看護師役割の演習後のレポートからは、1) カテーテル挿入に関する記述、2) 清潔・不潔に関する記述、3) 患者への配慮に関する記述、4) 物品配置に関する記述、5) 自己の振り返りに関する記述、の5つのカテゴリが、患者役割の演習後のレポートからは、1) 自己の感情や感覚に関する記述、2) 患者への配慮に関する記述、3) 看護師役の学生への要望に関する記述、の3つのカテゴリが抽出された。

(3) 看護師・患者役割それぞれのレポートに患者への配慮に関する記述が見られ、学生は患者役割体験で得られた羞恥心などの感情から看護へ結びつけて考えを深めていた。

(4) 看護師・患者役割それぞれのレポートの内容は役割の順序において大きな差異は認められなかった。これは、レポートが両役割体験後の演習後に記述されている点に関係していると考えられるが、学習内容の面で学生間の公平性が保たれていた。

## 9. おわりに

今回、導尿の演習で看護師・患者役割体験の順序と学習内容の関連について検討した。レポートの内容は役割の順序において大きな差異は認められず、学生相互に看護師・患者役割を担う学習方法を多く取り入れている基礎看護技術の演習で、学習内容の面で学生間の公平性が保たれていることが確認できた。また、学生は患者役割体験から羞恥心などのネガティブな感情や感覚の記述をしていたが、そこから患者への配慮に関する看護について考えを深めていることがわかった。しかし、役割ごとに記述する時間を確保していない点や観察者役割としての学びについての検討不足など、本研究の限界と言える。基礎看護技術の演習には学生にとって心理的・身体的に侵襲をきたすと考えられる演習項目もあるため、今後は学習効果の面と学生に対する倫理的な配慮の面に心がけ、授業の工夫を考えていきたい。

(ほそや・ともこ 医療保健学部看護学科)

(やまざき・ちよ 医療保健学部看護学科)

(ささき・みき 医療保健学部看護学科)

(こやま・えいこ 医療保健学部看護学科)

## 文 献

- 穴沢小百合・松山友子, 2004, わが国の看護基礎教育課程における基礎看護技術演習に関する研究の動向 1991~2002年に発表された文献の分析, 国立看護大学校研究紀要, 3 (1), 54-64.
- 大西香代子・大串靖子, 2007, 基礎看護技術演習の体験に関する廻及的調査, 三重看護学誌, 9, 89-95.
- 大西香代子, 2008, 「体験」をとおして倫理をどう学ばせるか, 看護展望, 33 (10), 30-34.

- 嘉手苺英子・金城忍・名城一枝・安里葉子, 2006, 実際に採血を行う技術チェックの看護技術教育上の意義, 沖縄県立看護大学紀要, 7, 17-24.
- 川嶋麻子・野口多恵子・丹佳子・井上真奈美・田中愛子, 2005, 基礎看護学領域における看護実践能力の育成に向けた演習の試みと課題—看護基本技術の習得にむけて—, 山口県立大学看護学部紀要, 9, 57-65.
- 佐藤友美・余川由紀子, 2007, 看護学生の自己学習方法と技術チェックとの関連—時的導尿の技術チェックの調査から明らかになったこと—, 日本看護学会論文集看護教育, 38, 12-14.
- 清宮裕子・臼井陽子他, 2006, 導尿(女性)の技術習得におけるテクニカルポイントの効果(第3報)—技術認定試験の評価から、テクニカルポイントの改善の方向性—, 成田赤十字病院誌, 9(1), 73-76.
- 高橋方子・竹本由香里・三國和美・阿部智美・土屋香代子, 2007, 学生によるデモンストレーションの評価と学習状況の検討, 宮城大学看護学部紀要, 10(1), 77-88.
- 成田伸・石井トク, 1993, 授業研究「体験学習」の文献的考察, 看護教育, 34(2), 91-100.
- 細矢智子, 2008, 基礎看護技術の演習における患者役割体験による学生の認識と心理的状态, つくば国際大学研究紀要, 14, 189-201.
- 米村敬子・柴田恵子, 2005, 排泄演習時における類似体験から技術習得への課題, 日本看護学会論文集 看護教育, 36, 302-304.
- 渡部節子・鈴木良子・南雲マリ子・酒井恵子, 排尿介助の演習方法と学生の認識について 青年期にある学生に与える影響, 看護教育, 34(2), 101-107.

## Importance of order of nurse and patient role-playing by students in a urethral catheterization exercise: analysis of post-training reports

Tomoko Hosoya, Chiyo Yamazaki, Miki Sasaki, Eiko Koyama

Fifty-seven first-year students at the Nursing Department of University A alternately played the roles of nurse and patient in a urethral catheterization exercise. We examined their post-training reports in order to analyze their acquisition of basic nursing skills and learning content.

Seventy percent of students who played the role of patient first considered that their experience helped them in playing the role of nurse next. These students seemed able to play the nurse role with less stress, because observing others performing urethral catheterization on them as patients had enabled them to visualize the task more easily. Students reported that they had learned five main things from playing the role of nurse: (1) the catheter insertion procedure itself; (2) awareness of cleanliness and uncleanliness; (3) consideration for patients; (4) how to arrange articles used for the procedure; and (5) self-reflection. Students reported that they had learned three main things from playing the role of patient: (1) awareness of their own feelings and physical sensations; (2) consideration for patients; and (3) the types of requests the patient needed to make of the nurse. Consideration for patients was therefore described in the reports made by both the students who had initially played the nurse role and those who had initially played the patient role. Both groups of students gained greater empathy for patients through the sense of humiliation that they had gained in their patient roles. There were no significant differences in the overall contents of the reports of students who had acted as nurses first and those who had acted as patients first. This may have been because the students wrote the reports after they had performed both roles. Nevertheless, the findings suggest that the learning process was fair to all the students.

**Key words :** Basic nursing skill, Urethral catheterization exercise, Patient role-playing